

カリニコレソソナヘラルベキモノナリ。アナカシコく。于時文明第五九月廿三日ニ、藤嶋郷之内林之郷超勝寺ニオイテ、コノ端書ヲ蓮崇所望ノアヒダ、同廿七日申ノ刻ニイタリテ筆ヲソメオハリヌ。

釋蓮如 在判

文明六年 甲午 紀元二一三四

閏五月十三日。鳳至郡總持寺、その寺領諸岳村。

二ヶ村の年貢定納額を定む。

【總持寺文書】 鳳至郡

九六三

諸岳二ヶ村寺領之年貢、或隱用或損免、故毎年納所不定減却是多矣。爰就于前往眞化和尙總目錄、本帳改正之、則分米六拾壹石四斗八升可有定納者也。仍爲後昆誌之。

前任 大養 叟 在判
納所 道 成 在判
侍衣 堅 周 在判

前任 如意 淳 享 在判

傳法 宗 等 在判

洞川 麟 堅 在判

妙高 壽 慶 在判

當住 普藏 榮 玖 在判

文明六年甲午閏五月十三日誌之

(本文書に諸岳二ヶ村とあるは、諸岳村及び二ヶ村にして、二ヶ村は一の邑名なり。眞化玄淳の總目錄は正長二年正月十一日に見ゆ。)

七月十八日。鳳至郡鐘川の百姓等、總持寺に、年貢錢を増納すべきことを約す。

【總持寺文書】 鳳至郡

九六四

諸岳山惣持寺領内保村之内遺河之年貢錢之事、本年貢錢壹貫八百五十文之内、つゞらはら山之事、妙道依 望而別而三百文之年貢を沙汰申候へと承候間、三百文之年貢錢を加候へ申候上は、永代引申候。但かやうに申候共、都合之御年貢錢貳貫百五十文之分内、當年寺家へ直納に申上

候。聽而請取を被下候べく候。若一錢も無沙汰仕候ば、悉如先々はなし可有候。若違亂之人躰候者、寺家よりの訴御成敗を仰可申候。仍而爲後日之狀如件。

文明六年甲午七月十八日

遺河の兵衛 略押
遺河の左近 略押

(表書) 前任 大養

淳 享 在判

十一月七日。幕府、山城臨川寺に、同寺領石川郡大野及び宮腰を還付す。

【臨川寺重書案文】 山城

九六五

加賀國大野宮腰事被返付訖。早如元寺家可被全領知之由、所被仰下也。仍執達如件。

文明六年十一月七日

(飯尾貞有) 美濃守 在判
(松田秀興) 丹後守 在判

臨川寺雜掌

十二月廿四日。加賀守護富樫政親、槻橋兵庫允

に、能美郡上土室・河北郡指江等を安堵せしむ。

【北村文書】 石川郡

九六六

加州能美郡上土室并河北郡英田庄内指江村等事、如先々知行不可有相違之狀如件。

文明六年十二月廿四日

槻橋兵庫允殿

(富樫) 政 親 在判

文明七年 乙未 紀元二一三五

六月十五日。幕府、朝日時長と中院通秀との江沼郡額田莊及び加納八田莊に關する相論を裁決し、通秀をして之を直務せしむ。

【中院文書】

九六七

加賀國額田莊・加納八田莊等事、朝日孫三郎時長申給奉書依稱當知行、被召出證文之處、雖令出帶去文正元年十月廿七日御判、伯父時基突鼻之刻、申加惣知行分、被還補時長之間、就此庄無亂明之沙汰者歟。所詮任度々御成敗之旨、彌可被全直務之由所被仰下也。仍執達